

新年度が始まり2週間。職場に配属された各新入職員の皆さんと力を合わせて、いのちと人権が輝くための事業と運動を広げていきましょう

年度初めの平和病院全体会で新入職員の皆さんに贈った（全日本民医連理事）高松平和病院原田院長のメッセージをご紹介します。

新入職員、ならびに、職員の皆さん、おはようございます。
今年も新しい1年がやってきました。心も新たによりしくお願いします。

今年度の病院目標は、『「誰のために・何のために」の医療・介護活動を考え、「連携」「共有」を大切に平和病院の優位性を強めていきましょう。』です。

新入職員の皆さんも当院、特に当院や協同病院、他の事業所が所属する民医連（民主医療機関連合会）のキーワードとして

「誰のために・何のために」を使うことがありますので、ぜひ耳慣れてもらいたいと思っています。

この言葉は4年連続で病院目標に入っています。これは、約5年前に職員全員に配布され、学習した民医連綱領ブックレットの表紙に書かれている言葉なのですが、この短い言葉の中には、全国の民医連が、病気や貧困はもちろん環境・公害問題や薬害、震災、原発事故、コロナ感染拡大、など全国各地、この香川でもいろんな健康被害の歴史がありました。とにかくそれらの困った人のところへ駆けつけて医療の手をさしのべ、地域の人々の暮らしと健康を守ってきた、ということが含まれています。私たちもその意志を継ぎ、さらに発展させていくために日々の医療活動を行っています。

ここに健康のことで困っている100人の人がいたとします。お金もあり、社会的な関係性にも困っていない、大概のことは自分で解決できる半分くらいまでの人はあまり平和病院へ来ることはないかもしれません。少しお金に困っている90番目くらいまでの人は平和病院で日常的に診ていることでしょうか。しかし、明日パンを買うお金がない、助けてくれる身寄りや近所のつながりもないという相当手強い99番目や100番目の人はなかなか病院へ来ることもできないかもしれません。しかし、その人たちと関わりを持ったならば一生懸命診察する、真摯に相談に乗る、その人の本当に困っていることを導き出す、その困ったことをあらゆる手立てを尽くして解決する、いのちと暮らしを守る、平和病院へ来てよかったな、と言ってもらえるようなそういった病院であることを私たちは目指しています。

新入職員の皆さん、困っている人たちの力になりたいという医療従事者を志した初心を大切にして、やりがいをもって目の前の仕事をコツコツと積み上げてください。そして、病院の存在意義である「誰のために・何のために」というミッションを重ね合わせて、一人一人が医療従事者として成長して行ってほしいと思います。この病院にいる先輩たちは皆さんの成長への援助を惜しみません。ともに精一杯がんばりましょう。

